



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ推進ニュース — 介護ウェーブの “Big Wave” をおこそう! —

決起集会等で、秋からのとくみを意思統一し取り組みを具体化しよう!

民医連外の事業所の方から「お互い頑張ろうな」と激励(西成医療生協・大阪)

9月24日(水)西成医療生協の「24＝福祉の日 宣伝行動」が花園町イズミヤ前でリレートークと署名行動をおこないました。ケアマネやデイサービスの職員によるリレートークでは、このまま高い介護保険料、介護利用の制限、低い介護報酬が続くと利用者はもとより介護事業所も運営が成り立たなくなり、介護崩壊の危機にさらされている。介護崩壊を防ぐためにもみなさんの署名をお願いしますと力強く訴えました。買い物帰りや仕事帰りの方が忙しい中足を止めていただき署名をしていただきました。署名をされた中には民医連外の介護事業所で働いている方もいて、「このままでいくと私たちも生活がやっていけない。お互い頑張ろうな」と声をかけていただきました。この日は民医連外の事業所からは来られませんが10名の職員の参加で署名は37筆でした。次回の定例宣伝は10月24日(金)午後5時から、玉出商店街(西側)でおこないます。



介護ウェーブ決起集会を開催し行動提起も確認(木津川厚生会・大阪)



9月25日(木)に『加賀屋病院介護ウェーブ決起集会』を開催しヘルパーを中心に30名の職員が参加しました。最初にNHKの「セーフティネットクライシス」を見ました。軽介護度者への給付抑制により、「自立支援」ではなく「自立阻害」の制度になっている実態を実際の事例で感じることができました。その後、全日本民医連のパワーポイントをもとに、介護報酬の削減、介護給付抑制の実態、介護職員の実情、政府のねらいなど、日本の介護は崩壊の危機にあることが報告されました。参加者全員で「行動提起」を確認しました。「年間5兆円にもものぼる軍事費をはじめ、無駄な公共事業や大企業優先の税金の無駄遣いの中で、社会保障費が削減されてきた。自分たちの働く場は、政治に密接に関係している。全員で声をあげていかなければならない。」との檄もとばされ、地域も巻き込んで、大きなうねりを起こそうと、皆さん早速署名用紙を持って帰りました。(大阪民医連介護ウェーブ推進ニュース No.26 2008.10.04 より)

★事例ファイル episode no.34

「生活困難者のつましき暮らし①」

○性別：女性 ○年齢：86歳 ○家族構成：独居 ○要介護度：要介護1
○現在利用している介護サービス：訪問介護、通所系サービス、福祉用具

【介護サービスの具体的な利用状況について】

○訪問介護・週1回（生活支援③）買物介助、居室内掃除、調理の援助。○通所リハビリ・週1回6～8時間利用。リハビリのためにペン字習字や、体操やレクに参加している。

【本人の身体状況、具体的な困難や生活上の支障について】

身体状況：高血圧内服治療中。両膝、変形性膝関節症。痛みと変形で起居動作や歩行困難。肥満もあり移動不安定。転倒歴あり。転倒すると起き上がれない。風呂場に2時間も起き上がれずにいたことがあった。経済状況：年間の年金額が約86万円。月々の生活費、約7万円の中に、家賃も含まれている。住まいは、大家が姪っ子で格安ワンルームを貸してくれている。通所リハビリは週1回だが、自己負担分が払えず利用頻度は毎週ではない。通院にはタクシーを利用するが、タクシー代金が上がり呼ぶことができない。道端で流しのタクシーがくるまで外でまつ。タクシー代払えず通院できない週もあり。通院を往診や、配薬などに少しでも節約できるように工夫している。

【制度に対する問題意識や、改善が必要と考えられる点】

経済的困難者で、生活保護になれない段階の方の介護保険の自己負担分を、全額なくすべきではないか。現在「低所得者利用料減額制度（25%減額）」を利用してはいるものの生活は困難。若い時代に保証人になり騙されて貧困になったと本人談。生涯70代後半まで仕事をしてきた。現在の貧困は悲しい。唯一の楽しみは晩酌も単価の安価な焼酎にしている。どんな理由があるにせよお金のことばかり気にしながら生活しなくてはならない状態を何とかして欲しい。

★事例ファイル episode no.35

「生活困難者のつましき暮らし②」

○性別：男性 ○年齢：87歳 ○家族構成：独居 ○要介護度：要支援2
○現在利用している介護サービス：訪問介護、福祉用具

【介護サービスの具体的な利用状況について】

予防訪問介護Ⅲを週3回（居室内掃除、調理の援助）利用

【本人の身体状況、具体的な困難や生活上の支障について】

肺気腫、じん肺で、慢性気管支炎で週3回通院し吸入している。骨粗鬆症、腰椎圧迫骨折のため痛みあり、起居動作困難。経済状況は、高齢者住宅に独居。筋力低下あり移動支障あるも、一人での食事が味気なく、夕食にタクシーで近隣のレストランに出かけることもある。

【制度に対する問題意識や、改善が必要と考えられる点】

何とかして外出ができ、認知症もなく一人でレストランにも入れるので要支援。しかし、慢性気管支炎のため、ほこりの少ない住空間整備を必要としている。腰痛があり、掃除に必要な体力がないが、要支援のため、毎日掃除にヘルパーが入ることが困難。住宅は上層階で風がよくはいる、ほこりっぽい造りである。大通りにも面している。本人はほこりと気管支炎との関連に怯えている。一度、要支援1認定となり、ヘルパーの回数が減らされることに絶望。区分変更で要支援2に。さらに、主治医意見書の掃除の必要性により、週3回のヘルパーで、掃除をプランに入れている

お問い合わせは、「介護ウェブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp